

復活へ

大和川の挑戦

9

清流

「日本一汚い川」からの脱却

大和川の水質改善は子どもたちへの啓発から。県は環境学習支援は、県河川課職員による各学校へ支援事業を行っている。

策について考え、実践し、2本立て。本年度は合わせて23校が県に受講を申請している。

講師を務める県河川課の植田有美主任主事は「クイズや体験学習の検査が面白いと興味を持って聞いてくれる生徒や、

子どもにも排水対策を

ら。県は大和川流域の小学生を対象に環境学習支援事業を行っている。

環境学習支援は、県河川課職員による各学校へ出前講座は小学4、5年生を対象で、総合学習の時間に開いている。大和川の水質の現状や、水道水と調味料などで汚れた水を改善するためにできることをやってみようという声が多い」と手応えを感じている。

次世代を担う子どもたちに啓発するとともに、各家庭でできる生活排水対策

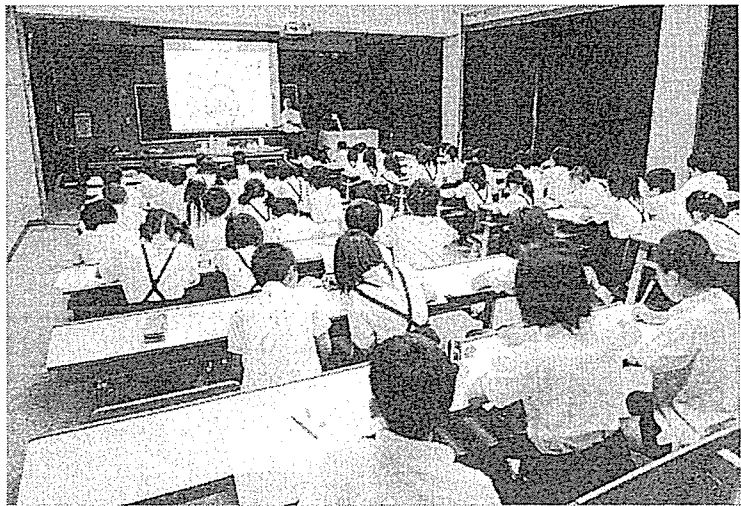
の研究で知られる谷幸三先生（大阪産業大講師）のリバーウォッチングの

道水と調味料などで汚れた水を改善するためにできることをやってみようという声が多い」と手応えを感じている。

一方、リバーウォッチングは、谷先生と子ども

H21年 9月30日(水) 新聞版
朝・夕奈良

環境学習支援



環境学習支援の一つである「出前講座」の様子

たちが川に入り、水生生物を観察する。「これは物」と谷先生が説明。

子どもたちが実際に体験することによって川の汚れを認識できると好評だ。

県の環境学習支援は平成11年度から始まったが、新規の受講校も出てきている。また生駒市、橿原市などでも同種の講座を開いており、県内に環境学習の輪が広がりをみせている。

県河川課は「子どもたちに川の汚れる原因を知ってもらうことによって、各家庭で生活排水の改善などを心掛けてもらえるのでは」と波及効果に期待をかけている。

毎月1回、下旬に掲載

当記事を奈良新聞社に無断転載することを禁じます。